

● 『グローバル・ガバナンス学叢書 グローバル・ガバナンス学 I 理論・歴史・規範』

グローバル・ガバナンス学会編／大矢根聡・菅英輝・松井康浩責任編集

2018年2月刊行予定

A5判・横組・上製・総頁数280頁 ISBN 978-4-589-03880-7



《国際秩序のあり方に着目し、見取り図を描く》

グローバル・ガバナンスの概念とこれに基づく分析を今日の観点から洗いなおし、理論的考察・歴史的展開・国際規範の分析の順に論考を配置。グローバル・ガバナンス学会5周年記念事業の一環として、研究潮流の最前線を示す。

■ 目次

はしがき

略語一覧

序章 グローバル・ガバナンス—国際秩序の「舵取り」の主体と方法 [大矢根聡]

1 理論——グローバル・ガバナンス論の再検討

第1章 グローバル・ガバナンス論再考—国際制度論の視点から [古城佳子]

第2章 国際秩序と権力 [初瀬龍平]

第3章 グローバル・ガバナンスと民主主義—方法論的国家主義を超えて [田村哲樹]

第4章 グローバル・ガバナンスとしてのサミット—政策調整「慣行」の視角から [大矢根聡]

2 歴史——戦後国際関係史への視座

第5章 覇権システムとしての冷戦とグローバル・ガバナンスの変容 [菅英輝]

第6章 イギリス帝国からのコモンウェルスへの移行と戦後国際秩序 [山口育人]

第7章 「開発」規範のグローバルな普及とリージョナル・アプローチ—アジア開発銀行（ADB）創設を事例にして [鄭敬娥]

第8章 戦争とグローバル・ガバナンス—戦争違法化は平和への進歩か？ [三牧聖子]

3 規範——規範創出・転換をめぐる外交

第9章 貿易自由化ガバナンスにおける多角主義と地域主義—マルチエージェント・シミュレーションによる行動規範の分析 [鈴木一敏]

第10章 ウクライナ危機とブダペスト覚書—国際規範からの逸脱をめぐる国際社会の対応 [東野篤子]

第11章 国連海洋法条約と日本外交—問われる海洋国家像 [都留康子]

第12章 日本による人間の安全保障概念の普及—国連における多国間外交 [栗栖薫子]

索引